

## 2 目標達成計画

事業所名：グループホーム「ひまわり」

作成日：平成25年4月15日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合ったものです。また、課題等は、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を掲げております。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	今年度は、職員も変わりましたので、新たに理念を構築し、グループホームの方向性を皆で共有していきたい。	職員も変わりましたので基本に立ちかえり、利用者主体のグループホームということを基本に職員みんなで理念を構築し、共有していく。	今まで職員のみで理念を構築していたが、今年は、利用者と一緒に理念を構築していく。	3 か月
2	2・4	昨年度、地域の防災協定を結んでいます。今年度は地域への広がりを進めていきたい。	地域の方々の要望についても可能な限り取り入れながら、一緒になって防災意識を高めていく。	地域交流会を通じて、地域の子供からお年寄りの皆さんに参加して頂き、楽しんでもらいながら防災、減災をより身近に感じてもらう。	12 か月
3	20	お年寄りの思いや願いの把握、ドリームアゲインの実施に努める	年1回のドリームアゲインを実施していく。	お年寄り一人ひとりに対して担当職員が決まっているが、ドリームアゲインの未実施のお年寄りもいる。担当者が中心となり全職員でケアプランに参画し、ふるさと訪問や旅行などドリームアゲインの実施につなげる。	12 か月
4	26	お年寄りの気持ちに寄り添った生活目標の設定やケアの実施に努める。	本人や家族の想いを伺いながら、職員も一緒になり、ひまわりでの生活が充実したものとなるように努めていく。	今年度もJ-CPATを用いながら、お年寄りのニーズや目標を明確に把握し、その方やご家族にとってより充実したひまわりでの生活となるように努める。また、同時に職員間での共有もはかっていく。	12 か月
5	49	お年寄りの重度化や職員体制といったところから外出の機会が少なくなっていたが、外出の捉え方を見つめなおし、より楽しい生活となるように努める。	お年寄りの重度化という実情もあるが、実情を踏まえたうえで可能な範囲内での外出に努めていく。	車を使ったドライブはもちろんだが、どこかに出かけることだけが外出ではなく、テラスでのお茶や敷地内の散歩といった外の風を感じていただくことも外出支援の一つであることを職員間での共有し、取り組んでいく。	12 か月